



## Vol.1 タイ人に傘は不要！

今回からはタイに住まわれていたご経験のある新妻由佳子さんにお話を伺います。

### 新妻さんはタイのどちらにお住まいでしたか？

タイの首都・バンコクに父の仕事の関係で4年間住んでいました。

バンコクはタイ最大の都市で、中心地には国内外の企業のビルやデパートなどが立ち並んでいます。また、街の周辺にはたくさん観光地もあるので、宿泊施設も豊富で、街には観光にきた外国人もたくさんいましたね。

また、バンコクの生活で印象深いのは「交通渋滞」です。想像を絶するくらいひどい渋滞で、ピーク時は普通なら10分の道が1時間位かかるんです。だから私が高校生の時は、渋滞の時間を避けて毎朝6時前にお迎えに来るスクールバスで登校していたんですよ。



### 日本と違うなと思ったことや、驚いたこと、戸惑ったことは何かありましたか？

驚いたことはいっぱいあります。見るものすべてが日本と違いすぎて驚きでしたよ。

まずは、やはり信仰心。国民の90%以上が仏教徒のタイでは人々の生活に深く深く仏教の教えがしみ込んでいました。街中のいたるところに仏様を奉った寺院のようなものがありますが、小学1年生ぐらいの小さな女の子が寺院の前を通り過ぎるとき、ふいに立ち止まって胸の前で手を合わせてお祈りしている光景を見た時は、本当に衝撃を受けましたね。

しかも今の若者風のファッションをしたタイ人の友達も、胸には仏像や有名な僧侶(タイでは徳をたくさん積まれた有名な僧侶はネックレスなどになっています)のネックレスをしていましたし、私の家のお手伝いさんも、少ないお給料から金製の仏像のネックレスを購入して身につけていました。

また、これも仏教の教えに基づくものなのですが、タイでは「死」は決してマイナスのものとして捉えられるものではないので、新聞の一面やTVのニュースに当たり前のように死体の写真や映像が流れます。これには度肝を抜かれるぐらいびっくりしました。街中でもバイクの事故が多いのですが、事故にあって亡くなった方の死体が新聞紙だけを被せた状態で寝かされている光景も何度か目にしましたね。



また、タイは王国なので伝統的に王家を敬うように教えられるのですが、今の王様「プミポン国王」はそういった教えを超えた人気があります。レストランや病院、学校、どこに行ってもプミポン国王とシリキット王女のお写真があるんです。

映画館でも上映時間の直前に必ず国歌と王様の映像が流れ、みんな起立をして王様を讃えますし、夕方6時になると毎日町中で国歌が流れ、みんなその場で立ち止まり王様を讃えるんですよ。

一度家の近くの公園に王様と王女様がいらっしゃる式典があって見に行ったのですが、タイに来てすぐで何も知らない私たちがボケーっと立っていたら、周りの方々に「土下座しろっ!」「頭が高い」とものすごく怒られて道端に座らせられたことがあって、とても印象に残っていますね。

更に驚いたのは、王様にお会いしてお名前をお呼びするとき、直接「王様」とお呼びするのは無礼にあたるらしく、「王様の足下のホコリさま(dust on your feet)」と呼びかけるといふ事です。それぐらい王様がとても尊敬されていて国民に絶大な人気があるんですね。

そしてやはり一番日本との違いを感じたのは貧富の差です。日本では決して想像出来ないほどの深刻なものでした。学校にいたタイ人の同級生は家に映画館やプールがあったり、外車を10台以上所有していたりと、想像を絶するお金持ちばかりだったのですが、一歩街に出ればスラム街もありますし、道にはその日の食事も困っているような人たちがたくさんいました。バンコク市はまだそれでも人々に笑顔がりましたが、田舎の方の貧しさはとても深刻なのではないかと思えますよ。

### タイで暮らしてみて、どんなところに魅力を感じましたか？

タイの人々の何に対しても「マイペンライ(気にしない気にしない)」の精神、厚い信仰心と王様を敬う心。また、今の先進国の都心部では中々見る事ができなくなった譲り合いの精神、「ありがとう」「ごめんなさい」の挨拶、気遣い、ゆとり、そういったものがある国民性に魅力を感じましたね。18歳でタイから東京に戻って来て新宿駅に降り立ったときに、ものすごいスピードでイライラしながら歩いてくる人が、人ごみを避けようともせず突進して来て肩がぶつかったんです。その時私はすぐに「ごめんなさい」と言ったのですが、向こうは舌打ちをして睨んできました。のんびりとしたタイの人々とのあまりのギャップに、ものすごく大きな「逆カルチャーショック」を受けましたよ。

また、バンコクは1年を通して温暖な気候で、一番暑いときでも日中40度超えることもあります。雨期にはスコールがあってもものすごい量の雨が降るので、道路に水が溢れ学校がお休みになることもあるんです。でもそれだけ雨が降るのに、なぜかデパートや市場などで傘売り場をほとんど見た事はありませんでした。[不思議だなあ]と思っていたら、なんとタイの人々はみんな、雨が降ったら止むまで雨宿りをして待つんです! だから雨のときはよくボーっと雨宿りをしている人々をあちこちで見ましたよ。そんな自然とともに生きるタイ人のライフスタイルが、私はとてもとても好きですね。



### 「雨が止むまで待つ!」

現代の日本人にはとても信じがたい感覚ですが、少しだけタイの人々の「ゆとり」を真似してみるのも良いかもしれませんね。

今回はタイの「お祝い事」についてお届けします。





## Vol.2 タイのお祝い

前回に引き続き、新妻由佳子さんからお話を伺います。  
今回のテーマは「タイのお祝い」です。

タイでは仕事とお祝い事のどちらを優先させることが多いですか？

父からの情報だと200%お祝い事を優先させるらしいです。  
日本人と違ってためらうことなく仕事を休むそうですよ(笑)



それでは誕生日について教えてください。  
タイならではの誕生日のお祝いの仕方がありましたか？

誕生日を迎えた本人が、友人・知人を食事などに招いてご馳走するというスタイルが一般的なようです。  
私のお友達は富裕層の人たちが多かったので、プレゼントも日本とあまり変わらない内容だし、食事もピザやケンタッキーだったり、かなり欧米的なお祝いが多かったですね。

定番の誕生日ケーキはありましたか？

タイのケーキはとにかくびっくりするくらい甘いんです！ほんとに歯が解けるんじゃないかと思うくらい甘い。そしてケーキの上ののっているクリームは蛍光色のような色のものが多くて、そのほとんどがバタークリーム！どうやってその色を出しているの?!と驚くくらいまぶしいピンクやブルーで、恐ろしくてフォークがさせませんでした。そういえばタイのスーパーで売っているケーキはミッキーとかミニーなどのディズニーキャラクターのものが多かったですね。あと暑い国ならではのアイスケーキも多かったですよ。

日本では20歳になると大人として認められ、その儀式として「成人式」を執り行う風習がありますが、タイではそのような風習・儀式はありましたか？

男子は一生に一度は仏門に入らなくてはいけないという風習がありました。王様でも若い頃に入られていましたね。

大抵の場合は、結婚する前までに仏門に入って、社会から一人前の男性と認められるようです。仏門に入るための休暇が認められている会社もあるそうですよ。



1~2週間出家する方が多いみたいですが、その間は皆頭を丸めて、黄色い袈裟(けさ)を身に付け、托鉢(たくはつ:僧尼の修行の1つで、信者から食糧などを乞うこと)でいただいたごまんを食べるそうです。

ちなみに、お坊さんに托鉢を差し上げるときは、いただいた側のお坊さんが感謝するのではなく、差し上げている側が感謝をするという考え方がタイでは普通なんです。

それは、タイの仏教では輪廻転生(りんねてんせい)を信じられていて、現世で良い行いをすると来世で良い人生を送れると考えているので、お坊さんへの托鉢は来世の自分のためにやっていることだから、その機会を与えて下さったお坊さんに感謝、という考え方なんだそうです。

それでは、クリスマスの風習は何かありましたか？

やはりほとんどが仏教徒なので、クリスマスはあまり盛大にお祝いをする事はなかった気がしますが、私はインターナショナルスクールに通っていたので、一般的なタイの人たちよりはクリスマスを楽しむ機会がありました。

毎年12月にはクリスマスブロム(ダンスパーティー)があって、仕立て屋さんで仕立ててもらったドレスを着、美容院に行って髪を整えるなど、オシャレをして行くのがすごく楽しかったですね。

タイは靴でも洋服でもすべて仕立て屋さんで自分サイズに仕立てる事ができるんです。ドレスはシルク100%の生地で作ってもらくと大体2万円くらいでした。

その他に12月は王様のお誕生日があって、町中をあげてお祝いするんです。そのためにイルミネーションで彩られた街は、日本のクリスマスに負けないくらい本当に美しかったですよ。



国民の90%以上が仏教徒のタイ。

出家のための休暇が設けられている会社もあるなど、生活に仏教が根付いている様子が見られましたね。

次回はタイの結婚式や家族についてお届けします！





## Vol.3 タイの結婚式

前回に引き続き、新妻由佳子さんから話を伺います。  
今回のテーマは「タイの結婚式と家族」です。

タイの結婚式はどんな場所でどのように行われていましたか？

富裕層はホテルで式を挙げるスタイルが多かったですが、一般市民は自宅や町の小さなレストランなどでお祝いをするなど、家庭環境に合わせて様々な式が行われていたみたいです。

日本のタイムスケジュールがきちんと決められ、正装が当たり前！と言う結婚式とは違い、ゲストは三々五々集合し、訳がわからないうちに始まって、訳がわからないうちに終わるといった感じです。服装も、正装の人もいれば、Tシャツにサンダルの人もいるといった感じで、かなり自由な雰囲気ですよね。バンドを呼んで歌ったり踊ったりする式もありましたよ。

お料理はタイ料理のケータリング(食器やテーブルも)が多いらしく、専門の業者がいっぱいあります。

また、タイ人は普段お酒は高級品であまり飲まないもので、お祝いの席で飲み慣れないお酒を飲んで酔っ払い、大変な騒ぎになることも結構あるみたいです(笑)



それでは次に「家族」について教えてください。

タイの方々には、お父さん・お母さんをそれぞれどんな存在と感じているようでしたか？



タイの人たちほどとにかく両親をものすごく大事にしています。

田舎から都会に出稼ぎに来ている人たちは、皆自分のためではなく親に仕送りをするために過酷な労働に耐えているようでした。夜の町で働いている女性などはそういう理由が大半のようです。またマッサージ屋さんに行くと、小学生ぐらいの子が夜の9時頃でも働いていて、とてもとても胸が痛くなりました。

みんな親を助けようという気持ちで働いていたのではないかと思います。

最後に、男性と女性の文化について教えてください。

タイには、いわゆる「男らしい男性」はあまりいないようですね。なまけものの男性が多く、女性がよく働くという印象が強いです。

たしかに女性が汗水たらして働いている姿はよく見ますが、男性は暑いと大抵木陰で横になって寝ていました(笑)父の会社でも女性社員がよく働いていたそうです。

また、夫婦の間に子供が出来た場合も、女性が仕事を辞めるといった文化は無いようで、子供が生まれた後も夫婦で共稼ぎをして、その親が孫の面倒をみるというパターンが多いようです。



親への仕送りをするために一生懸命働く人や、共稼ぎの夫婦を支えるために孫の面倒を見る祖父母など、昔の日本にも当たり前のようにあった家族のつながり方が根強く残っていることが垣間見れましたね。今回でタイのお話は終わりです。次回もお楽しみに！